

会議録（要点筆記）

会 議 名	令和 6 年度 第 2 回米原市社会教育委員会会議
開 催 日 時	令和 7 年 1 月 22 日（水）午後 7 時 00 分から午後 8 時 40 分まで
開 催 場 所	山東学びあいステーション 多目的室
出席者および 欠席者	出席者：大谷委員、上田委員、谷口（嘉之）委員、北澤委員、 川崎委員、谷口（絹代）委員、福永委員 事務局：生涯学習課 平山課長、中村補佐、吉田主任 欠席者：河地委員、角川委員、日置委員、富田委員、布施委員
協 議 事 項 等	・滋賀県社会教育委員連絡協議会第 2 回理事会および滋賀県社会教育研究大会の報告について ・「米原らしさがいきる学びの場」調査研究の進捗状況 ・今後の進め方について
結 論 (決定した方針等)	・委員は 2 月中に事務局へ調査研究成果を提出する。 ・事務局において最終報告の案を作成し、3 月初旬に共有を行う。
協議経過・概要	1 開 会 委員の過半数が出席のため、会議が成立（12 名中 7 名） 2 あいさつ 3 滋賀県社会教育委員連絡協議会第 2 回理事会および滋賀県社会教育研究大会の報告について 【資料 1】により事務局から説明 ○各市町の取組内容について ○連絡事項 ・令和 7 年度の近畿地区社会教育研究大会は和歌山県、全国大会は岩手県で開催される。 ○滋賀県社会教育研究大会について ・「社会教育委員とは何か」という課題を多くの市町が抱えている中、防災の観点から社会教育委員として活動できるアイデアを教示いただいた。 ・普段から自助や共助の強化に加え、自治会活動などの生活の中で防災意識を溶け込ませていく必要がある。 4 「米原らしさがいきる学びの場」調査研究の進捗状況 【資料 2-1】により事務局から説明 事務局）委員の皆様の調査結果を共有させていただきたい。

	委員長) 春照の太鼓踊りの練習を見学した。 人手不足、資金不足が課題として見えた。 春照地区以外の参加者を募ったり、参加や体験の費用の徴収を検討するなどの解決策が考えられる。 社会教育委員として、地域に隠れた学びの場を見える化し、多くの人に知ってもらうため、パネルでの活動紹介や、何でも発表できるような発表会を年1回は開催することを提案したい。
	委員) 福井市で取り組まれている「ふくまち大学」を調査した。 行政から提示された地域課題に有志の市民グループが調査研究を行う「ふくまちラボ」の活動に取り組まれている。 米原市にも、ルッチまちづくり大学やつくる未来展など、ふくまち大学のように行政・市民・企業など様々な主体が関わり合う場がある。その活動を支援する組織や基金などがあれば、継続的な取組が可能になるのではないかと。
	委員) 市内外の小学生から 60 歳代までが参加し、20 年活動されている和太鼓サークルでは、和太鼓の運搬が大変だという課題があり、米原学びあいステーションなどで活動されている中高生メインの演劇サークルでは、受験などで抜けるメンバーもいれば、生活が落ち着いて復帰するメンバーもあり、人数の割り振りや講師の調整が難しいという課題がある。外部から見ているだけではわからないことが多くあった。 誰もが参加できる場を守っていくため、活動の悩みや資金面の課題を相談できる窓口があれば良いと思う。
	事務局) 本日欠席の委員からは、調査の中で出た課題として、高齢化、人手不足が大きいという報告を受けている。また、調査された団体やサークルの要望として、活動内容の紹介を行ってほしいということがあり、伊吹山テレビや広報まいばらなどで少しでも取り上げられると良い。 また、居場所づくりの団体が増えてきているが、こちらも周知や資金面での不安を相談できる窓口、支援ができると良い。
	委員) 醒井公会堂のクラウドファンディングの取組が面白く、こういったものが広がっていくと良い。
	委員) ルッチまちづくり大学第 11 期生に入学し、自分に何ができるか

